

# 技術文書の品質確保のための設計モデル

株式会社NTTデータ 川崎 真弘 kawasakimsh@nttdata.co.jp

## 開発における問題点

エンタープライズ開発において安定した品質の確保、ノウハウの集約と継承、属人性の排除のために、開発ガイドラインなど技術文書の品質維持が必要となっている。ところが、大規模な技術文書はチームで執筆することが多い一方、文書構造や執筆ルールは暗黙知化しており、文書の品質は個人に依存していることが課題となっている。

## 手法・ツールの適用による解決

既存文書の文書構造をボトムアップ的に形式知化するとともに、本来記述されるべき内容をトップダウン的に照合し、最終的に文書のあるべき設計情報を抽出する。抽出した設計情報による現行文書の検証を行い、設計テンプレートとして書くべきことを執筆者にフレームを提供することを旨とする。

## アプローチ

### 解決すべき課題

- 執筆ルールの形式知化
- 要求を満たしていることの検証を可能に
- 上記を通じた属人性の排除
- 文書としての可読性の向上

### 1. 明示化

これまで暗黙のルール・設計思想に基づいて書かれた現行ドキュメントから、「設計情報」をリバースエンジニアリングにより形式知化する。

### 2. 照合

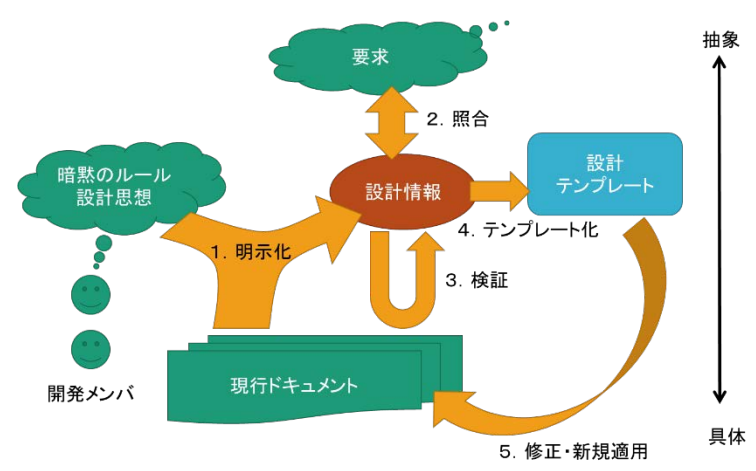
現状の設計情報が、本ドキュメントに対する要求を十分に満たしたものであるかを照合する。

### 3. 検証

既存ドキュメントの記述内容と設計情報を照らし合わせ、不足点や説明の順序の違いなどが不明瞭にする。

### 4. テンプレート化

設計情報をテンプレートファイル化することで、要求を満たしたうえで型にはまった文書の執筆を可能とする。



## 評価

既存の開発ドキュメントに対し以下の2項目により評価し、本取り組みの有効性を確認した。

- ①これまで蓄積してきた暗黙的なルール、設計情報を明示化することができるか
- ②個々の章を執筆・レビューした際には、見つけることのできなかつた、要求に対する不足点や、文書の構造的な差異をどれだけ発見することができるか

設計情報	章							
	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8
解決すべき課題の定義	○	○	○	○	○	○	○	○
課題の分類	○	○	○	○	○	○	○	○
具体例	○	○	○	○	○	○	○	○
用語定義	○	○	○	○	○	○	○	○
課題へのアプローチ	○	○	○	○	○	○	○	○
利用する技術、ライブラリ紹介	○	○	○	○	○	○	○	○
アーキテクチャ説明	○	○	○	○	○	○	○	○
メリット/デメリット	○	○	○	○	○	○	○	○
判断ポイント	○	○	○	○	○	○	○	○
考慮ポイント・注意点	○	○	○	○	○	○	○	○
発生メカニズムの説明	○	○	○	○	○	○	○	○
回避方法の説明	○	○	○	○	○	○	○	○

## 考察

1. 適用対象  
章ごとに構造の繰り返しを持つ文書に関しては、今回の手法の適用が可能な一方、多様性の高い文書の場合は、個別最適を追求し、全体的な整合性を取って考慮しないほうが良い場合もある。また、ある程度フォーマットが決まっており、自由記述の範囲がほとんど存在しない技術文書に関しては、適用効果は薄い。
2. 今後  
文書執筆のビルドプロセスへのチェック機構の組み込みを行い、継続的な改善に繋げる。